

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200495		
法人名	ラブネットサービス株式会社		
事業所名	とんがりぼうし		
所在地	倉敷市玉島柏島688-1		
自己評価作成日	平成23年3月24日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3390200495&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成23年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が「その人らしく」生活していただけるよう、常に職員の意思統一を図り、確認しあいながら、日々のケアをさせていただいています。ご家族様と情報共有し、コミュニケーションを深められるよう、努めています。入居者様、ご家族様、職員の笑顔あふれるホームを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

良寛荘や円通時公園がある山麓にあった最上稲荷の玉島分院の跡地を借りて1ユニットのグループホームを平成22年4月に設立した。丸1年経ったホームを訪問した。ホームを開設する前に施設長と職員達が家具や食器、什器類、カーテンと装飾等を皆で話し合っ決めて。職員皆で造ったホームと言う感じがした。利用者は全部女性でまだ軽度の人が多いので、活動的でホームの清掃や調理、片付け、洗濯物の手伝をする人が多いので、白板に仕事と手伝う人のカードが作っており、毎日の当番を決めている。ちぎり絵や貼り絵をする担当の人も居て、2ヶ月に1作品を作るそうだ。桜の木が壁に貼っており、現在は紫陽花と蝸牛の作品を制作中である。家族にホームの生活ぶりを知らせる為に「とんがりぼうし新聞」を発行している。その中に4コママンガを描いている職員が居る。職員の中にそれぞれの得意な人が居る。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ひとり一人が日々心掛け、ミーティングでも理念をもとにしたものとなっている。	「その人らしく」「桜、梅、桃、李」を掲げ利用者、職員共にその人らしく生活出来る事を目指している。誰にでも見えるように理念、職員の介護に対する思いを書いて掲示している。施設長はじめ全員利用者第一の思いで取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、地域のお祭り等、積極的に参加している。魚市場や地元のスーパーに買い物に行き、地域住民と交流している。	開所して1年、町内会に加入し、今町内会の活動があまり盛んではないのでホームから町内会の活動の発信源にしていきたいとの思いがある。子供みこしの訪問、消防訓練にはチラシを町内に配布、来年度は幼稚園児の訪問をお願いするように働きかける。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他のグループホームと合同で地域ケア会議をさせて頂き、地域代表、民生委員の方へ認知症ケアの啓発を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーと積極的に意見交換し、サービスの向上に活かしている。	町内会長、民生委員、包括支援センター、家族の参加で行われている。消防署の参加により避難訓練も行われ、地域の方の協力等の助言も貰う。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険事業者等連絡協議会に加入し、積極的な研修参加をし、連携を深めている。	地域密着の研修に参加し具体的な取り組み、運営推進会議の議題など事例を挙げてグループ討議がなされ得るところが多かった。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守り法を徹底し、さりげなく一緒に歩く等、安全面に配慮し、自由な暮らしを支えるようにしている。	話の中で身体拘束について、言葉による虐待等その場その場で行っているが、記録としては残していない。	職員会議において研修し記録として残しておき、振り返り、気付きや意識できるようにしていったらどうでしょうか？
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにおいて、よく語り合うことにより、入居者様の虐待につながらないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員に説明をおこなっている。実際に後見人と接し、話すことで職員も理解を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、面会時に、利用料金や起こりうるリスク、施設の方針等、十分な説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、電話や面会時に意見交換を行う中で、なんでも言って頂ける様な雰囲気作りには留意している。	家族からの要望をしっかり受け止め、職員皆で利用者第一に考えて対応している。利用者の調子について、身体的不調の訴えの原因は何であるか？職員は病気によるか、精神的なものか、薬によるか等、医師と相談し対応している。行事の一緒に家族会を開き家族同志の情報交換や良い関係が持てて年に何回か開催予定。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に自由に提案してもらい、ミーティングで意見交換し、反映させている。	職員はひとりの意見として言うのではなく、皆で必ず相談し、多くの意見を聞いてその方向を示すようにしている。職員間は仲が良く何でも言いやすく、もし意見の違いがあっても十分に話し合って互いに納得できるよう場づくりがなされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻度に現場に来ており、現場の雰囲気の確認、職員と話す中で、状況把握している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修に、交替で職員が参加できるようにし、ミーティングで研修報告している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に参加し、他施設と意見交換や交流を図り、サービスの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活状況を把握し、本人、ご家族の希望を聞き、施設の雰囲気馴染んでいただけるよう、努める。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護の悩みを受容し、事業所としては、どのような対応ができるか、事前に話し合っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの早期実行を基本とし、状況確認し、改善に向けた支援の提案、相談するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の可能性を見極め、できることをして頂き、やりがい、生きがいを持てるよう、日々努力している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子をこまめに報告・相談し、コミュニケーションをとり、協力して頂ける関係を作れる様努める。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人は自由に出入りでき、電話等での連絡を取り持つ等、つながりが途切れないよう、努める。	手紙が届くし電話もよくかかってくる。時には遠方に出ているお孫さんが帰ったのでと訊ねてくることもある。ドライブの途中自宅近くを訪ねると「あんたどこへいきよん。私の家はあっちで?」と言っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞き、不安解消に努めたり、利用者間の関係が円滑になるよう、働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合も、生活環境、支援の内容、注意点など、情報提供し、連携をとるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりあいの中で、家があるのに帰れない等、利用者の言葉や表情などから、真意を推測、確認、把握している。	一人ひとりと個別にゆっくり時間をとって話をしている。仕事の当番を決め料理している時、お風呂に入っているとき、食器を拭いて片付けをしている時は職員を独り占めできるので利用者はその時間が大好き。その時の言葉を吸い上げている。	一人ひとりの言葉の意味する事を職員全員でどんな思いがこの言葉になっているのかを話し合い、それを記録に残しておくようにしてはどうでしょうか？
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を把握する為、事前に家庭訪問し、本人や家族から聞き取りをしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを尊重し、その人らしく一日を過ごしていただけるよう、努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、関わりあいの中で意見を聞いたり、スタッフ間でアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行っている。	利用者には担当の職員が決まってはいるが、職員全員の意見を吸い上げ気がついたことは必ず皆に伝え、一人だけの意見にしないように全体の意見にしていく。日々その時がカンファレンスになっている。担当者とおもひの意見をプラスして練り上げてプラン作成に生かしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、本人の生活や言葉を記録し、申し送りノートを活用する等、情報を共有し、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じ、買い物、通院等、必要な支援は柔軟に対応し、一人ひとりの満足が高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入したり、郵便局にホームの新聞を貼って頂く等し、地域で安全で豊かな暮らしを送れるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は、本人や家族の希望に応じ、対応している。	2箇所の病院が月に2回往診に来てくれ、夜間でもいつでも対応してくれるので安心している。歯科も往診があり皮膚科、眼科については家族が付き添って受診している。緊急時には職員による介助をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、医療の知識を勉強し、利用者の健康管理や相談を協力医に24時間連絡がとれるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に職員が見舞い、家族とも情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心し納得した最期を迎えられるよう、随時意思を確認している。	入居時に重度化、看取りについて話をしているがそのときは充分看取りについてまで考えてない様子なので、その時々本人、家族に医療行為がなく、ここでの生活ができるようであれば、職員は出来る限りの事はしていきたいと考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けたり、夜間帯の緊急対応マニュアルを整備し、周知徹底している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回、入居者と一緒に、避難訓練をしている。地域住民にも参加を呼び掛けている。	2回の訓練を行った。消防署員に来てもらい、地域の方には避難場所も聞き、参加のチラシを配ったが民生委員が参加してくれた。。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いを尊重し、自己決定しやすい言葉かけをし、さりげないケアを心がけている。	男性職員がいるときには入浴・排泄の介助について希望を聞くようにした。今は全員同性なので気持ちは配慮しながらケアを行っている。お誕生日会の食べたいものを聞いて、お寿司とステーキに別れて食事をした。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、趣味等、複数の選択肢を提案し、自己決定できるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしのペースを大切に、外出、ドライブ等、希望に合わせた支援が出来るよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際の洋服選びや、化粧、マニキュア、又、本人のこだわりのスタイルも尊重し、支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは、利用者と相談し、決め、食事に関わる事すべて、何らかの形で利用者と共にしている。	料理の本を見たり、魚か肉では具体的には思いつかないので広告を見てこれがいいな？と呟きが出るので、食事に対する満足度や好みはしっかり把握している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量をチェックしている。検食簿を利用し、食材やメニューが重ならない様にしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は声かけし、出来ない方は、毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎防止などにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、声かけ、誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。	部屋にトイレがあるので声かけや見守りはお部屋で行われている。自立の方も多く見守りの方は4名。排泄の仕方についても利用者の今の身体的状態を職員みんなで話し、より安心でよい状態が維持できる方向を考えている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックをし、毎日乳製品は摂取できる工夫をしたり、家事を通し、体を動かす様に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が一方的に決めず、利用者の希望や体調に合わせ、入浴して頂いている。	週3回の入浴。風呂に入りたい希望があればそのときには入浴できる。職員が独り占めできるので皆お風呂は大好きな様子。入浴後良い表情で出てこれ「いい気持ちじゃ」とにこにこ顔。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のペースで午睡したり、安眠できるよう日中活動も配慮し、生活のリズムを整えるよう努める。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人ファイル、薬ケースに保管し、変更があった場合は、申し送りを徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ひとり一人の好きな事、出来る事を共に探し、感謝される喜びを感じていただくよう、支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物、特別な外出行事、ドライブ等、ひとり一人の希望を把握し、添えるよう支援している。	買物は市場に、花見、図書館に趣味の本を借りに行く。絵本、紙芝居等もよく借るもの。おやつを買う為に出ることもある。市場で魚一匹そのままを見ることで季節を感じる。今日はお誕生日の方の希望でお寿司を食べに出る組とホームでステーキの組に分かれて楽しんだ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出すことで、満足感や社会性の維持につなげている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状を出す支援を行っている。届け物のお礼や、近況報告を本人ができるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたフロアの飾りつけは、利用者と共に考え、居心地良く過ごせるよう、工夫している。	玄関は広く今はお雛の段飾りが飾られている。ベンチもあり寛げる。リビングは食堂テーブルの隣のコーナーにはソファがありそこで新聞を読む人、テーブルでちぎり絵、折り紙で折って立体感のある貼り絵が出来ている。壁には今日の当番表はかけてあり調理、洗物、食器拭き、洗濯干し、洗濯畳、掃除等分担が書いてある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	眺めの良い窓際にイスを置き、一人で過ごしたり、ソファでは、気の合った利用者同士が、くつろげるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が納得するよう、家具等設置し、仏壇を置く方もあり、本人が居心地良く過ごせるよう、工夫している。	部屋には趣味の本、掃きだし窓から外の庭に出られるように手摺りのついた階段が取り付けられてあり、趣味の植木鉢にはいつでも水遣りができるようになっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、その都度職員で話し、事故なく自立支援につなげていけるよう支援している。		